

要 点 の ま と め

理 科

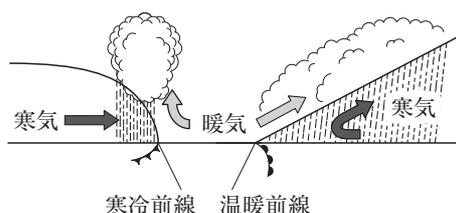
● 天気の変化

・ 気温と湿度

乾湿計の乾球温度計の示度が気温を表している。湿度は、乾球温度計と湿球温度計の示度から、湿度表を使って求める。湿度表の乾球温度計の示度の行と乾球と湿球の示度の差の列の交点の値を読みとる。例えば、乾球が22℃、湿球が18℃を示した場合、右のように、乾球の示度が22℃の行と、乾球と湿球の示度の差が4.0℃の列の交点の値である66%が湿度となる。

		乾球と湿球の示度の差[℃]					
		0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
乾球の示度[℃]	23	100	91	83	75	67	59
	22	100	91	82	74	66	58
	21	100	91	82	73	65	57
	20	100	90	81	72	64	56
	19	100	90	81	72	63	54
	18	100	90	80	71	62	53

- ・ 寒冷前線… 寒気が暖気を押し上げながら進む前線。前線付近では積乱雲が発達する。寒冷前線が通過すると、強い雨が短時間に降ることが多い。前線通過後は、風が北寄りになり、気温が下がる。
- ・ 温暖前線… 暖気が寒気の上にはい上がりながら進む前線。前線付近では広範囲に乱層雲、高層雲、高積雲、巻雲など、層状の雲ができる。温暖前線が近づくと、弱い雨が長時間にわたって降ることが多い。前線通過後は、風が南寄りになり、気温が上がる。



● 化学反応式

化学変化	化学反応式
酸化銀の熱分解	$2\text{Ag}_2\text{O} \longrightarrow 4\text{Ag} + \text{O}_2$ 酸化銀 \longrightarrow 銀 + 酸素
炭酸水素ナトリウムの熱分解	$2\text{NaHCO}_3 \longrightarrow \text{Na}_2\text{CO}_3 + \text{CO}_2 + \text{H}_2\text{O}$ 炭酸水素ナトリウム \longrightarrow 炭酸ナトリウム + 二酸化炭素 + 水
水の電気分解	$2\text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2$ 水 \longrightarrow 水素 + 酸素
銅の酸化	$2\text{Cu} + \text{O}_2 \longrightarrow 2\text{CuO}$ 銅 + 酸素 \longrightarrow 酸化銅
酸化銅の還元	$2\text{CuO} + \text{C} \longrightarrow 2\text{Cu} + \text{CO}_2$ 酸化銅 + 炭素 \longrightarrow 銅 + 二酸化炭素
鉄と硫黄が結びつく化学変化	$\text{Fe} + \text{S} \longrightarrow \text{FeS}$ 鉄 + 硫黄 \longrightarrow 硫化鉄
マグネシウムの燃焼	$2\text{Mg} + \text{O}_2 \longrightarrow 2\text{MgO}$ マグネシウム + 酸素 \longrightarrow 酸化マグネシウム
水素の燃焼	$2\text{H}_2 + \text{O}_2 \longrightarrow 2\text{H}_2\text{O}$ 水素 + 酸素 \longrightarrow 水